

## 別紙 1

### 平成 27 年度教育課程研究指定校事業追加募集公募研究課題

平成 27 年度における国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程研究指定校事業の以下に掲げる公募研究課題（以下、「公募課題」とする。）について、追加募集を行います。

なお、中学校には中等教育学校の前期課程を含みます。

#### 【公募課題 2】各教科等に係る研究課題

小学校：理科，音楽，図工，家庭

中学校：国語，社会，数学（課題②のみ），美術，技術・家庭（技術分野），  
技術・家庭（家庭分野），外国語

#### 【公募課題 3】学校全体で取り組む研究課題

（1）伝統文化教育（小学校，中学校，特別支援学校（高等部を除く））

### 公募課題 2 各教科等に係る研究課題

#### 【小学校】

学習指導要領の指導状況及びこれまでの全国学力・学習状況調査結果から、学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の背景
  - 各教科等での指導状況及び全国学力・学習状況調査結果から、一定の領域等の内容について、一層の指導と評価の工夫改善による児童の確実な理解，能力の定着が求められている。
  - また，学習指導要領の実施状況に関して，ペーパーテストだけでは把握が困難な内容等について，その学習状況を把握し，今後の教育課程や指導方法等の改善を図ることも求められている。
- ◆ 実践研究の目的，内容等

本研究では，各教科等において，児童の確実な理解，定着が望まれる内容に係る教育課程の編成，指導方法及び評価方法等の工夫改善に関する実践研究を行い，その成果を全国に普及し，各学校での指導改善の参考に資する。さらに必要に応じて，ペーパーテストだけでは把握が困難な学習状況等を把握するため，これらに関して各教科等で示された課題についても調査研究に取り組み，今後の教育課程や指導方法等の改善に資する。
- ◆ 留意点
  - 実践研究に取り組む際には，下記の各教科等の内容を中心に取り組むほか，応募した学校の課題等も適宜加えて実践研究に取り組むこととする。また，①，②・・・と複数の内容が提示されている教科等については，特に指示のある場合を除き，その全て又はいずれかの内容を選択して取り組むものとする。
  - 平成 26 年度に研究指定校として委嘱されている学校が，平成 26 年度の研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は，それらの成果等を基に新たに平成 27 年度の研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確にすること。

理 科	<p>◇下記の①又は②のいずれか一つを選択すること</p> <p>①教育課程全体に係る課題（下記の(ア)又は(イ)から一つ選択すること）</p> <p>(ア)問題解決の力を育てる指導法等の研究</p> <p>(イ)実生活との関連を図る指導法等の研究</p> <p>②全国学力・学習状況調査等に係る課題（下記の(ウ)又は(エ)から一つ選択すること）</p> <p>(ウ)観察・実験の結果から考察し結論を導くための効果的な指導方法の研究</p> <p>(エ)観察・実験の計画及び実施における効果的な指導方法の研究</p>
音 楽	<p>○思いや意図をもって表現したり、音楽を全体にわたって味わって聴いたりする主体的・創造的な学習を実現する指導方法等の研究（下記の(ア)又は(イ)に該当するもの）</p> <p>(ア)「音楽表現の創意工夫」及び「鑑賞の能力」の指導と評価の充実に関わるもの</p> <p>(イ)「我が国の音楽」を学習素材として扱うもの</p>
図 画 工 作	<p>○表現及び鑑賞の活動を通して育成する資質能力を明確にした指導計画及び指導方法と学習評価の実践研究</p>
家 庭	<p>◇下記の①～④について、いずれか1つ又は②と③を選択すること</p> <p>①内容「A家庭生活と家族」の(1)のアにおいて、「A家庭生活と家族」から「D身近な消費生活と環境」の各内容と関連を図り、自分と家族のつながりや成長した自分を自覚するための指導と評価の研究開発</p> <p>②内容「B日常の食事と調理の基礎」において、(2)栄養を考えた食事、(3)調理の基礎に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常生活で活用する能力を育成するための指導と評価の研究開発</p> <p>③内容「C快適な衣服と住まい」において、(3)生活に役立つ物の製作に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常生活で活用する能力を育成するための指導と評価の研究開発</p> <p>④内容「D身近な消費生活と環境」において、衣食住など他の内容と関連を図り、身近な消費生活や環境をよりよくしようと工夫する能力を育成するための指導と評価の研究開発</p>

【中学校】

学習指導要領の指導状況及びこれまでの全国学力・学習状況調査結果から、学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

- ◆ 研究期間：2年間
- ◆ 実践研究の背景
  - 各教科等での指導状況及び全国学力・学習状況調査結果から、一定の領域等の内容について、一層の指導と評価の工夫改善による生徒の確実な理解、能力の定着が求められている。
  - また、学習指導要領の実施状況に関して、ペーパーテストだけでは把握が困難な内容等について、その学習状況を把握し、今後の教育課程や指導方法等の改善を図ることも求められている。
- ◆ 実践研究の目的、内容等
 

本研究では、各教科等において、生徒の確実な理解、定着が望まれる内容に係る教育課程の編成、指導方法及び評価方法等の工夫改善に関する実践研究を行い、その成果を全国に普及し、各学校での指導改善の参考に資する。さらに必要に応じて、ペーパーテストだけでは把握が困難な学習状況等を把握するため、これらに関して各教科等で示された課題についても調査研究に取り組み、今後の教育課程や指導方法等の改善に資する。
- ◆ 留意点
  - 実践研究に取り組む際には、下記の各教科等の内容を中心に取り組むほか、応募した学校の課題等も適宜加えて実践研究に取り組むこととする。また、①、②・・・と複数の内容が提示されている教科等については、特に指示のある場合を除き、その全て又はいずれかの内容を選択して取り組むものとする。
  - 平成26年度に研究指定校として委嘱されている学校が、平成26年度の研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は、それらの成果等を基に新たに平成27年度の研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確にすること。

国語	<p>◇下記の①から③のいずれか一つ又は二つを選択すること</p> <p>①「C 読むこと」領域において、課題解決的な言語活動を通して、生徒が主体的に学習に取り組みながら思考・判断・表現する単元の研究</p> <p>②言語活動を通じた指導において、期待される言語活動の姿を想定して評価規準を設定し、具体的な活動状況に即して適切な評価を行う方法の研究</p> <p>③全国学力・学習状況調査の結果分析に基づいた、指導方法等の工夫改善に関する研究</p>
社会	○問題解決的な学習を中核とする単元構成の工夫改善に関する研究
数学	<p>②全国学力・学習状況調査の記述式問題の分析に基づき、知識・技能などを実生活の様々な場面で活用する力を育成するための指導方法等の研究</p> <p>(※①についての追加募集はありません。)</p>

美術	<p>○「A 表現」及び「B 鑑賞」の相互の関連を図り、美術科において育成する資質や能力と学習内容との関係を明確にした指導方法等の工夫改善についての研究（下記の(ア)(イ)から一つ又は両方を選択すること）</p> <p>(ア)「A 表現」(1)(3)及び「A 表現」(2)(3)において、「B 鑑賞」及び〔共通事項〕と効果的に関連させ、感じ取ったことや考えたことや目的や機能などを基に、生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描くこと（主題の創出）に重点を置いた指導方法等の工夫改善について</p> <p>(イ)「A 表現」及び「B 鑑賞」において、〔共通事項〕と効果的に関連させ、生活の中の美術の働きや美術文化についての理解を深める指導方法等の工夫改善について</p>
技術・家庭	<p>◆技術分野と家庭分野の両方又はいずれかの分野に取り組むものとする</p> <p><b>【技術分野】</b></p> <p>◇下記の①～③のいずれか一つに取り組むものとする</p> <p>①技術分野の思考力・判断力・表現力等に該当する、「生活を工夫し創造する能力」の育成を、3年間を見通して計画的に育成するための方策と、育成状況の評価の在り方について</p> <p>②多様で高度な技術（technology）が身近な生活で利用されている中で、今後の社会で活用できる技術（technology）に関する重要な概念の明確化と、その習得を図る指導と評価の在り方について</p> <p>③道徳教育、ESD、防災・安全教育、知財教育等、今後技術分野で特に重視すべき教育の、技術分野の特質を生かした指導と評価の在り方について （なお、重視すべき教育については、学校の実態に応じて例示以外を取り上げてよい）</p> <p><b>【家庭分野】</b></p> <p>◇下記の①～⑤について、①～④いずれか1つ又は①と⑤、②と⑤、③と⑤を選択すること</p> <p>①内容「A家族・家庭と子どもの成長」(3)において、幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児への関心を高め、関わり方を工夫できるようにするための指導と評価の研究開発</p> <p>②内容「B食生活と自立」において、(2)日常食の献立と食品の選び方のア、イ、(3)日常食の調理と地域の食文化のア、イに関する基礎的・基本的な知識及び技術を身に付け、日常生活で活用する能力を育成するための指導と評価の研究開発</p> <p>③内容「C衣生活・住生活と自立」において、(1)衣服の選択と手入れのウ、(2)衣生活、住生活などの生活の工夫のアに関する基礎的・基本的な知識及び技術を身に付け、日常生活で活用する能力を育成するための指導と評価の研究開発</p> <p>④内容「D身近な消費生活と環境」において、消費生活と環境についての基礎的・基本的な知識及び技術を身に付け、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できるようにするための指導と評価の研究開発</p> <p>⑤家族・家庭や衣食住の内容に設定した「生活の課題と実践」において、生活を工夫し創造する能力や実践的な態度を育成するための指導と評価の研究開発</p>
外国語	<p>○教科書等の本文で取り上げられている題材や言語材料を活用し、生徒が自分の考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を中心に授業を展開するための指導と評価に関する研究</p>

### 公募課題3 学校全体で取り組む研究課題

学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

(1) 学校全体としての各教科等の連携による体系的な伝統文化に関する教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究

◆ 対象校種：小学校，中学校，特別支援学校（高等部を除く）

（※高等学校についての追加募集はありません。）

◆ 研究期間：2年間

◆ 実践研究の目的，内容等

学校の教育活動全体の取組により，児童生徒に伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を身に付けさせるため，各教科等における伝統的な言語文化，歌唱及び和楽器，行事食・郷土食，産業，和服の基本的な着装その他の伝統的な事項に係る指導の連携を図りつつ，体系的な取組による指導効果の向上，学校全体での定着を図る研究を行う。